

今を輝く人に聞く

7

まちひと ZOOM!!

花々が咲き誇るこの季節、南原小学校から北に延びる通りを中心に、南原笹野町の沿道のおちらこちらに花が植えられています。この活動を行っている代表が窪田とし子さんです。

花植えは、町内の女性が集まる親睦会「笹野町れでいーず」が始めました。「この通りは通学路ですが、信号も無いためかスピードを出す車をよく見かけます。そこで、通りに花を植えて和んでもらえればと思い、花々と共にひたすら子ども達の交通安全を願っています」と窪田さん。

12年前に20個のプランターを沿道に設置して始めた活動は、徐々に町内の有志の会や子ども会なども巻き込んで植栽するようになりました。窪田さんによると、花があることで通りが華やかだけでなく、町内の雰囲気も変わったように感じると言います。「秋までの水遣りは会員だけではできませんので、それぞれにお願いして町内総出で行っています。そのことが、近所同士で会話するきっかけを一役担っているのかもしれない」。

南原笹野町の沿道を花々で彩る

窪田 とし子 さん (南原笹野町)

[Profile] 両親と夫の4人暮らし。趣味は吊し細工などの手仕事や旅。高機(織機)があり草木染めも楽しむ。生涯学習ボランティアも務める。

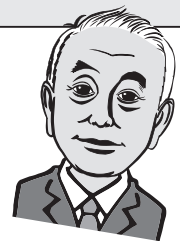
花を植えて町内を明るく
花いっぱいのにまちに



今年5月に行われた花植えでは、マリーゴールドとペゴニア450本を130個のプランターに植えました。何年も活動が続ける中、活動に賛同して自宅前の沿道を自ら花で飾る人も増えています。「継続してきたことで、町内の皆さんにも活動が理解されました。今後もできる範囲で続けて、『笹野町花いっぱいロード』と呼ばれるような通りにしたいです」。取材中に車が通り過ぎると、色とりどりの花々が風に揺れました。

今年3月3日、米沢牛が農林水産省の地理的表示(GI)保護制度に登録されました。これまでも米沢牛は高い品質と評価を獲得してきましたが、この登録により、知的財産として保護されることとなり、いよいよ名実ともに「ブランド牛」の地位を獲得しました。メディアでも米沢牛を取り上げたテレビ番組が多く放映されています。嬉しさと同時に誇りを感じます。さて、米沢には歴史・気候・風土・土壌が育んだ特産品が

おしょうしな
よねざわ



今月のはなし
米沢ブランドを世界へ

たくさんあります。鷹山公が推奨した米沢織、日本で初めて製造された帝人のレーヨン。今、長い歴史を持つ絹織物、化学繊維の素材を活かした繊維製品のファッションブランド化が進行しています。また、山工学部発、世界で初めての有機EL照明、世界最軽量のノートパソコン等工業製品が米沢で生産されています。そして、観光面では、戦国時代有数の武将であった謙信公を祖とする「上杉の城下町」としての歴史・文化が今も輝いています。「味のABC」の館山りんご、米沢牛、米沢鯉、他にも雪菜、小野川の豆もやし、遠山かぶ、梓山大根など伝統野菜も関心を持っていただいております。こうした地域資源を磨き上げ、連携を図りながら「米沢ブランド」として、米沢の素晴らしさを国内外へ発信していきたいですね。

米沢市長 中川 勝